



## 出水市ゼロカーボンシティ宣言



出水市では、国内で観察できる野鳥約600種のうち約300種が確認されているほか、新種の甲殻類として発見されたオシリカジリムシや、まだ発見されていない未知の生物も含め、多種多様な生物が私たち人間とともに生きています。

私たちの子どもが大人になった時、夢と希望を持って、いきいきと安心して暮らせる「持続可能なまち」を実現するために、ラムサール条約湿地である「出水ツルの越冬地」を含む、ラムサール条約湿地自治体に認証された本市の恵まれた自然環境を未来へ引き継いでいかなければなりません。

しかしながら、近年では人間の活動で継続的に排出される温室効果ガスが原因とされる猛烈な台風や集中豪雨など、激甚化した気象災害が多発しており、人間や生態系にとって深刻で広範囲にわたる不可逆的な影響が生じる可能性が高まっています。

2018年に気候変動に関する政府間パネルが公表した「1.5°C特別報告書」では、2015年に合意され2020年から本格運用が始まったパリ協定を踏まえ、二酸化炭素排出量を2050年頃に正味ゼロとすることが必要とし、政府においても2050年までにカーボンニュートラル・脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。

出水市も、チーム地球の一員として、市民・事業者・行政が一体となって、環境・経済・社会の3側面が調和したSDGsの達成に向けた取組を加速させるとともに、再生可能エネルギーの地産地消などを通じて、2050年に二酸化炭素の実質排出量をゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを、ここに宣言します。



令和4年6月6日

出水市長 榎本 伸一